

# インクルーシブ保育と 共生社会

—韓国における障害児統合オリニジップ  
と障害児保育運動の最新動向—

参加費無料

## 多様性を保障するインクルーシブ保育を考える（2）

「多様性を保障するインクルーシブ保育を考える」は3回に渡るリレーシンポジウムです。第1回は、先駆的な実践を展開する欧州地域からスウェーデン、第2回は東アジアにおけるフロントランナーとして韓国の実践、第3回は日本における実践を報告し、「多様性を保障する保育の理論と実践」のプラットフォームづくりを共に考え発信します。

### 【第2回 企画趣旨】

—権利は獲得するもの—韓国では、園長らが組織的に障害児保育運動を展開し、現在の障害児統合オリニジップの内容を作ってきました。しかし、それは完成形ではなく、常に組織的な保育運動とともに、より良い保育を追い求め、進化しています。本シンポジウムでは、韓国でのインクルーシブ保育の実践と最新の保育の動向を報告します。第1回スウェーデンの多文化保育を引き受け、第2回では韓国での障害児保育運動を通して、多様性を保障するインクルーシブ保育について、皆さんと一緒に考えていきたいと思えます。

### シンポジスト1

#### 柳 ミヒ (YU MIHEE)

元 全国障害児統合オリニジップ協議会初代、第2代会長  
現 全国障害児統合オリニジップ協議会顧問  
現 With幼児社会的協同組合理事  
現 公立 プアムオリニジップ園長

#### 発表題目：障害児保育における全国障害児統合オリニジップの役割

概要：韓国では1994年「特殊教育振興法」の改正で、統合教育の理念が導入されました。さらに2007年に「障害者等に対する特殊教育法」の制定、2008年には国連障害者権利条約の批准をきっかけに、障害児保育分野でも統合保育が進められています。一方で、重度の障害児だけが通う分離保育の障害児専門保育園も存在しています。こうした状況の中、障害児の統合保育の認識を改め、専門的なケアと教育を行うために園長と保育者、父母などが、障害児統合保育の活性化を目指して多様な取り組みを展開しています。その鍵となる全国障害児統合オリニジップ協議会の役割を考察します。

使用言語：日本語・韓国語（逐次通訳あり）

### シンポジスト2

#### 金 仙玉 (KIM SUNOK)

愛知みずほ短期大学 准教授

#### 発表題目：韓国の障害児保育士養成について

概要：インクルーシブ保育を実践する上で、保育者の高度な専門性が不可欠であると考えます。本報告では、韓国の障害児保育者養成課程の教科目を紹介し、インクルーシブ保育を実践していく上で保育者養成課程に求められる教育内容について考えてみたいと思えます。

### コーディネーター

工藤英美 日本福祉大学 教育・心理学部子ども発達学科

2023年1月28日（土）

14：00－16：00

（13：00開場）

場所 日本福祉大学

美浜キャンパス 文化ホール

オンラインで同時開催

### 参加申込

申込フォーム



[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLS eqw7ph-Lfk4bAHfLAibxkNjIHNZt\\_vNMNG7jjN68xc4oF\\_rg/viewform?usp=sharing](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLS eqw7ph-Lfk4bAHfLAibxkNjIHNZt_vNMNG7jjN68xc4oF_rg/viewform?usp=sharing)

URLもしくはQRコードより申込みフォームにアクセスの上、必要事項をご記入ください。

事前申込締め切り

2023年1月23日（月）

9:00まで

※オンラインでご参加の方には、登録メールアドレスに参加URLをお送りします。

## お問合せ

日本福祉大学 教職課程事務室 教育実践研究センター担当

TEL：0569-87-2218（平日 10：00～17：00） Email：kyo-jissenjimu@ml.n-fukushi.ac.jp